

2018年8月9日

県教育長 鈴木 淳一様

日本共産党福島県議団
団 長 神山 悦子
副 団 長 阿部裕美子
〃 宮川えみ子
幹 事 長 宮本しづえ
政調会長 吉田 英策

猛暑が続く中、公立小中学校と県立学校教室へのエアコン早期設置を求める緊急申し入れ

今年は、記録的な猛暑が全国的に続き、学校の授業や行事の最中に熱中症などで倒れる子どもたちが相次いでいます。県内でも福島市をはじめ、会津若松市、石川町などが全国でも高い37度を超える外気温を観測しています。

共産党県議団は、これまでも小中学校、特別支援学校や県立高校の普通教室へのエアコン設置を求めてきたところですが、菅官房長官は7月23日、「緊急の課題だ。特に、クーラーなどが設置できていない小中学校は、早急に対応しなければならない」と述べ、小中学校でもクーラー設置を補助する考えを示しました。県としても、国の指示待ちとならず、まさに命に直結しかねないことから県独自に緊急対応すべきです。

県内の学校別設置率は、文部科学省の3年ごと2017年度調査で、小中学校の普通教室で65.1%、特別教室で44.4%でした。また、特別支援学校では普通教室で49.7%、特別教室43.2%でした。さらに、今回、西日本の豪雨災害の避難所となった学校の体育館のエアコン設置も大きな課題になっています。体育館は部活動でも使用することから、子どもたちの健康や安全面からも特に留意が必要です。

したがって、以下の点を緊急に対応するよう要望します。

記

- 1、小中学校の普通教室、特別教室、体育館にエアコンを早期に設置するよう市町村を支援すること。
- 2、県立特別支援学校や県立高校の普通教室、特別教室、体育館へエアコン設置を県費で設置すること。その際、設置及び電気代等の関連経費は、県で負担すること。

以上